

# 社説



## 偽物追放も価値向上に必須

### 書鑑定に壇仏美

白山市の美川佛壇協同組合が、組合加盟店以外から購入した「美川仏壇」の真贋の判定に乗り出し、基準を満たしたかどうかの「鑑定書」を発行するという取り組みは、ブランドの名を借りた偽物が横行する中で、本物の価値向上につながる試みであろう。技を極めることと同時に、真贋を見分ける目を持ち続けることも、伝統の継承に直結する。

石川県内から、美川仏壇をはじめ多くの工芸品や農産物、温泉などが地域団体商標(地域ブランド)の認定を受け、全国でもトップクラスの数となっているが、消費者の側も、地域ブランドに厳しい目を向け、高い品質と安心感を求めるようになって

てきた。認定されたことが到達点ではなく、その価値を維持し、さらに向上させるための出発点であると考え、業界の中に本物と偽物とをしゅん別するシステムを作っていくことも今後の課題となろう。

県内の仏壇業界では、同じ地域ブランドに認定された金沢仏壇も、今年度から検査合格証に職人の氏名を記載する取り組みを始めた。七尾仏壇も堅牢さを前面に出して売り込みを進めるといふ。石川の伝統工芸の総合芸術の感もある仏壇だけに、作り手のこだわりも大きく、認定を機に、特徴を生かして他との違いを際立たせる意欲が見えてきた。

美川仏壇の場合も、これまで県外で製作されたり、部材が外国製品であつても美川仏壇として販売するケ

ースが後を絶たなかったこともあり、同協同組合では、不正

販売の抑止や消費者保護の面から、「本物」とのお墨付きを与えるために厳しい認定基準を設けており、場合によっては法的措置も辞さないという強い姿勢も示している。

組合では、加盟店に対して抜き打ちで鑑定を行っているほか、昨年七月に組合員十五人からなる鑑定委員

会を発足させ、組合加盟店以外から

「美川仏壇」として購入した仏壇について、素材である木の材質や塗り、金具、彫刻などをチェックし、基準に達しているかどうかを調べることにしたという。

こうしたルール違反を見逃さない作り手の姿勢が、地域ブランドの価値を下支えしていると言え、他の地域ブランドの関係者も大いに参考にしてもらいたい。

## 消費マインド冷やすだけ

### 議論上げ引き税率

福田内閣の発足後、消費税をめぐる論議がかしましい。福田康夫首相が〇八年度には消費税率を上げないと表明し、いったんは論議を引き取ったかに見えたが、政府税制調査会が〇八

年度税制改正答申の最終案で消費税率を引き上げに言及するなど、余塵がくすぶっている。政治家や官庁サイドから、消費税に関する不用意な発言が飛び出すたびに、消費マインドが冷え、足下の景気に悪影響を及ぼしていることを承知の上での発言なの